

吸入指導マニュアル

平成 31 年 4 月作成

(令和 2 年 5 月一部改訂)

(令和 4 年 4 月一部改訂)

国立病院機構福岡病院

目次

1 吸入指導の重要性	2
2 吸入療法に用いられる薬剤の特徴と注意点	3
① 吸入ステロイド薬（ICS）	3
② β_2 受容体刺激薬（LABA、SABA）	3
③ 抗コリン薬（LAMA、SAMA）	4
3 吸入療法と吸入指導	5
① 吸入機器の種類と特徴	5
② 定量吸入器の吸入指導ポイント	5
③ 吸入操作の一連の流れ	6
④ 加圧式定量噴霧式吸入器（p-MDI）、ドライパウダー式吸入器（DPI）、 ソフトミスト定量吸入器（SMI）	6
⑤ 粒子径	7
⑥ 吸気流速	7
⑦ うがい	8
⑧ 吸入操作のポイントまとめ	8
4 デバイスごとの吸入ポイント	11
① p-MDI	11
② DPI	19
③ SMI	27
5 デバイス選択	29
6 吸入薬一覧	31
7 吸入チェックリスト	42
《付録：吸入チェックリスト（成人用・小児用）》	45
《参考文献》	46

1 吸入指導の重要性

気管支喘息（BA）及び慢性閉塞性肺疾患（COPD）は慢性気管支炎症疾患であり、治療薬による長期的なコントロールが重要である。これらの疾患の主体として使用される吸入薬は、薬剤を直接局所（主に下気道）に到達させることができるため、効果の速効性が期待でき、内服薬と比較して副作用が少ないことが利点である。

しかしながら、デバイスの多様性や操作の複雑さから、患者の手技が不適切な場合には、治療効果が低下し、副作用や有害事象の原因となることで QOL の低下につながることもあり得る。吸入薬による治療効果は、内服薬と比較して患者自身の手技や使用状況に大きく依存する。よって、薬の効果を得るためには、適切な吸入操作のための十分な吸入指導を行うことが重要となる。

《略称一覧》

1. BA (bronchial asthma)：気管支喘息
2. COPD (chronic obstructive pulmonary disease)：慢性閉塞性肺疾患
3. DPI (dry powder inhaler)：ドライパウダー定量吸入器
4. ICS (inhaled corticosteroid)：吸入ステロイド薬
5. LABA (long acting β 2 agonist)：長時間作用性 β 2 刺激薬
6. LAMA (long acting muscarinic antagonist)：長時間作用性抗コリン薬
7. p-MDI (pressurized metered-dose inhaler)：加圧噴射式定量吸入器
8. SABA (short acting β 2 agonist)：短時間作用性 β 2 刺激薬
9. SAMA (short acting muscarinic antagonist)：短時間作用性抗コリン薬
10. SMI (soft mist inhaler)：ソフトミスト吸入器

2 吸入療法に用いられる薬剤の特徴と注意点

BA および COPD に使用する吸入薬には、主に抗炎症薬として吸入ステロイド、気管支拡張薬として β_2 刺激薬と抗コリン薬がある。

① 吸入ステロイド薬 (ICS)

- 特徴
BA における第一選択薬である。吸入薬は全身性の副作用を防ぐことを目的として、使用される。
- 作用機序
気道の炎症を抑えることにより、気道狭窄や気道過敏性を改善する。
- 副作用
口腔カンジダ症、嚔声、咽喉頭刺激症状（疼痛、刺激感、異物感）など。
- 注意点
局所副作用予防のため、吸入後のうがいを徹底する。全身作用の副作用が問題になることはほとんどないため、自己中断ないよう指導する。

② β_2 受容体刺激薬 (LABA、SABA)

- 特徴
作用時間により長時間作用型 (LABA) と短時間作用型 (SABA) に分かれる。BA の長期管理薬として LABA を用いる場合、ICS との併用が必須である。
- 作用機序
気管支平滑筋の β_2 受容体を刺激することにより、気管支平滑筋を弛緩させる。気道の慢性炎症に伴って引き起こされる気道浮腫、平滑筋肥大や気道狭窄など気道閉塞性障害に基づく諸症状の改善に使用される。
- 副作用
血清 K 値低下、循環器症状（心悸亢進、脈拍増加、不整脈等）、手指振戦、口腔咽頭刺激感、筋痙攣（足が攣る）など。
- 注意点
高血圧、心疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病のある患者は症状の悪化に注意する。過度な使用により不整脈、心停止などの重篤な副作用が発現する可能性がある。抗炎症作用は示さないため、症状改善を感じた場合でも医師の指示なく ICS を減量または中止し、 β_2 刺激薬を単剤で使用しないよう指導する。

③ 抗コリン薬 (LAMA、SAMA)

➤ 特徴

作用時間により長時間作用型 (LAMA) と短時間作用型 (SAMA) に分かれる。COPD において気管支拡張効果は、抗コリン薬 > β_2 刺激薬である。

➤ 作用機序

気管支平滑筋のムスカリン受容体において副交感神経である迷走神経由来のアセチルコリンに拮抗することにより、気管支平滑筋の収縮を抑制する。

➤ 副作用

口渇、吐き気、排尿困難、便秘、緑内障の悪化など。

➤ 注意点

緑内障、前立腺肥大のある患者は症状の悪化に注意する。

誤って目に入らないように指導する。充血、眼痛、霧視、視覚暈輪等が発現した場合は、急性閉塞性隅角緑内障の徴候の可能性があるので、直ちに眼科を受診するように指導する。

吸入後に即時型過敏症 (まぶた・唇・舌の腫れ、痒み、蕁麻疹、発疹、発熱、息苦しさ等) が発現した場合は、使用を中止し、直ちに医療機関を受診するように指導する。

抗炎症作用は示さないため、症状改善を感じた場合でも医師の指示なく ICS を減量または中止し、抗コリン薬を単剤で使用しないよう指導する。

3 吸入療法と吸入指導

吸入療法では、副作用の軽減と薬剤の至的な肺内到達量を得るために、薬剤側の要因（特性・吸入機器の種類や性質など）と生体側の要因（呼吸機能・吸入手技など）の両面を考慮する。

① 吸入機器の種類と特徴

➤ ネブライザー

【利点】普通の呼吸で吸入可能。乳幼児に吸入可能。薬液量調節が容易。

【欠点】吸入装置が大型。高価。使用に時間がかかる。薬剤の種類が限定される。
電源が必要。騒音が生じる。

➤ 定量吸入器

【利点】軽量・小型で、携行性に優れる。特別な装置が不要。騒音がない。

電源不要。吸入に時間がかからない。

【欠点】吸入手技の習得が必要。吸入が不確実である場合がある。年少者や低肺機能者、知的障害者では使用が難しい。量の微調節が不可能。安易に反復使用しやすいため過量投与の危険がある。

② 定量吸入器の吸入指導ポイント

➤ 吸入指導を行う際は、以下の点について説明することが重要である。

【吸入の原理】吸い込むことで直接気道に作用する薬剤である。

【吸入の利点】気道における局所療法であるため、薬が少量で副作用が少ない。

【吸入の欠点】正しく吸入ができていないと効果に差が出る。

【薬に関する情報】効果、作用時間、吸入薬の重要性、副作用など

【指示内容の確認】用法、用量、使用のタイミングなど

【吸入方法】患者に実際に練習させて手技を確認する

【デバイスの管理・保管】交換時期、手入れ方法など

③ 吸入操作の一連の流れ

- 吸入の手順は、以下を基本とする。
1. 薬の準備（初回は空打ち）
 2. 姿勢を正す
 3. 息吐き
 4. 吸入
 5. 息止め
 6. 後片付け
 7. うがい

薬剤やデバイスにより実施の必要性は異なる部分もあるが、患者の混乱をさげ、一連の動作を習慣づけるためにも一律に実施する。

④ 加圧式定量噴霧式吸入器（p-MDI）、ドライパウダー式吸入器（DPI）、ソフトミスト定量吸入器（SMI）

吸入薬は、薬効による選択と同時に、患者にとって使用しやすいデバイスであることが重要である。そのため、それぞれの特徴を理解した上で指導を行うことが重要である。以下に p-MDI と DPI、SMI の特徴をまとめた。

	p-MDI	DPI	SMI
粒子径	0.9-5 μ m	2.5-5.5 μ m	0.5-4.5 μ m
利点	<ul style="list-style-type: none"> • 携帯性に優れる • すぐ使用できる • 多用量 • 吸気流速が弱くても使用しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> • 噴霧と吸気の同期が不要 • 刺激性添加物を含まないため、吸入時の気道刺激が軽減される • 残量が確認しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> • 吸入ガスが使用されていない • 肺内吸着率が高い • 粒子径が2ピークを示す
欠点	<ul style="list-style-type: none"> • 噴霧に握力が必要 • 噴霧と吸入の同期が必要 • 噴霧剤、添加剤が刺激となる可能性がある • 肺内への薬剤到達率が低く、口腔内沈着率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> • 極端に吸気流速が弱い患者には使用しにくい • 吸気流速が弱いとエアゾル化できないため、一定の吸気流速が必要 • 粒子が p-MDI より大きい • 口腔内沈着率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> • セット等の事前作業が必要 • 噴霧と吸入の同期が必要 • 噴射速度が遅いため、一回の噴射時間が長い

⑤ 粒子径

細気管支の病変が強い病態には、粒子径が小さいエアゾールを選択することが推奨される。細気管支とは、気管支末梢に存在する約 2mm 径の軟骨組織のない気道組織の事をさすが、粒子径が小さいものはより末梢気道に到達して効果を表す。

径 30~70 μm の粒子は鼻腔、20~30 μm は咽頭、8~10 μm は気管、5~8 μm は気管支、3~5 μm は細気管支、0.5~3 μm は肺胞に吸着する。中枢、抹消気道の両方をカバーすることを考えると、最適な粒子径は 2~3 μm と考えられる。

末梢気道の炎症にフォーカスを当てた治療や気道壁が肥厚したりモデリングが進展している状態で、ICS の効果が得られにくい場合に粒子径が小さい薬剤が選択される場合があるが、粒子径が小さいと吸入した薬剤が呼気とともに排出されてしまう可能性が高いため、吸入後の息止めが推奨される。

ICS では粒子径を考慮することにより、治療効果向上を期待できる場合もあるが、 β_2 刺激薬や抗コリン薬では粒子径を考慮した薬剤選択は行われない。

現在使用されている ICS の平均粒子径は、以下に示す。

6 μm > フルタイドディスクス (5.3 μm)
> フルタイドエアゾール (2.8 μm)
> パルミコート (2.6 μm)
> アズマネックス (2.0 μm)
> オルバスコ=キュバール (0.7~2.1 μm) > 1 μm

⑥ 吸気流速

DPI の場合、吸気流速も重要になる。患者の吸気によってエアゾル化させるため、おおよそ 30-60L/min の吸気流速が必要となる。一般に吸気流速が 30L/min 未満の場合は肺内の薬物到達率が不十分であり、90L/min 以上になると ICS の場合に嘔声の副作用を来しやすいとされる。小児の場合、一般に 5 歳以上で吸入可能である。

吸気流速が十分あるか確認するために、インチェック（経口吸気流速測定用）や製薬会社より無料提供のあるデバイスごとのトレーナー・テスター（笛）を用いることが望ましい（p23 DPI：⑤ 吸入補助具の使用 も参照）。

吸気流速(L/mL)	
ブリーズハラー	50
ジェヌエア	45
ディスクス	30
エリプタ	30~36
タービュハイラー	30~35
ツイストハラー	20
ハンディハラー	20
レスピマット	15
スイングハラー	20

⑦ うがい

ICS 吸入時には、嘔声や口腔内カンジダなどの副作用予防のためにうがいを徹底する。ICS 以外は必須ではないが、一律に実施することが望ましい。うがいができない時は、飲水してもよい。

また、うがいが困難な患者には、口腔内をすすぐ、ハミガキを行う、食前に吸入するなどの指導の工夫を行う。

➤ うがいの方法

ほほの筋肉を動かして口の中を洗う「ぶくぶくうがい」、喉の奥を洗う「ガラガラうがい」をそれぞれ 3 セット以上行う。

吸入後時間がたつと除去率が減少するという報告もあるため、吸入した直後にうがいを行うことが推奨される。

③ 吸入操作・指導時のポイントまとめ

	p-MDI、SMI	DPI
① 薬の準備	(初回のみ) 空打ちを行う (p-MDI) 容器をよく振る	1 回分量吸入できるようセットする
② 姿勢を正す	無理のない程度に姿勢を正す	
③ 息吐き	吸入直前に息を吐きすぎない (ゆっくりと息を吸い込むため)	吸入前に息を吐く (勢いよく吸い込むため)
④ 吸入	5 秒程度かけ、 ゆっくり大きく 吸い込む (小児は 3 秒程度)	2~3 秒程度で、 勢いよく大きく 吸い込む
⑤ 息止め	5 秒程度息を止める (小児は 3 秒以上) (肺内沈着率を高めるため)	
	続けて使用するときは 30~60 秒程度間隔をあける	間隔をあけず続けてよい
⑥ 後片付け	正しい保管を行う	
⑦ うがい	吸入後は必ずうがいを 3 セット以上行う	

➤ 共通事項

- 背筋を伸ばして十分に息を吐く (DPI は、吸入口に息がかからないように吐く)
- アゴと吸入器の末端を少し上げて、吸入器のベクトルを気管方向に向ける
- 口からデバイスを外して約 5 秒間息止めをする
- ゆっくり吐く

- 口腔内局所副作用の予防には使用前の飲水を勧める。使用後はうがいの後にも飲水・飲食を勧める。
- 夜間の SMART 療法時や乗り物の中など、うがいが不可能な場合は飲水して口腔内・咽頭部を洗い流す。

★SMART 療法：single inhaler maintenance and reliever therapy

ホルモテロールの気管支拡張効果は即効性であるため、ブデソニド (BUD)/ホルモテロール (FM) 配合剤を増悪時に SABA の代わりに追加吸入

➤ 初回指導時

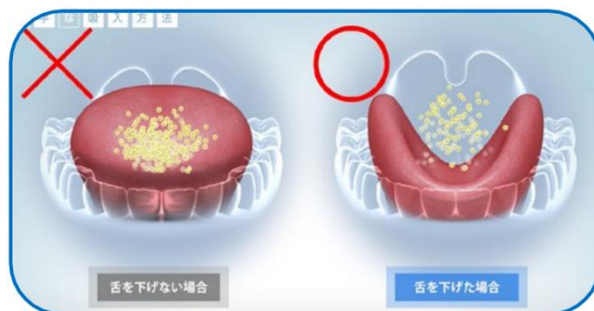
- 吸入の必要性を説明する。
- ステロイド使用時は、ステロイド薬への抵抗を払拭する（内服・注射より約 1/10 の投与量で済むので副作用は最小限である）
- 副作用を伝える
- 本人のみでは理解できないような場合（小児、高齢者、障がいのある方など）はキーパーソンに立ち合いを求める
- パンフレットの説明に加え、吸入指導動画、実薬・練習器具を使用して説明する。
- （空打ちが必要な薬剤は）休薬してしまった時の空打ちの回数も説明しておく。
- SABA、SMART 療法を行う場合は、1日に行った回数を把握できるように記録を取ることを勧める
- LAMA、SABA（抗コリン）で苦みを感じることもあるため、吸入後のうがいを勧める

➤ 2回目以後

- 自己判断での中止や減量などがないかを確認する
- 吸入回数を守れているかを確認する（患者さんに答えていただくとよい）
- SABA、SMART 療法の回数を把握する。
- 実薬・練習器具を使って正しい吸入操作ができているかを確認する。
- 吸入後のうがい、吸入口の掃除、スパーサーの洗浄などができているかを確認する。
- 副作用の出現の有無を確認する

●吸入時の舌下げ『ホー吸入』について

吸入薬の流入経路の途中には舌があるため、付着すると気道内への到達量が減ってしまう。そのため吸入時には、舌を下げノドの奥を拡げて「薬の通り道」を広く保つことが望ましい。「ホー」の発音が最も舌が下がるとともに喉の奥が広がり、口先が閉じるため『ホー吸入』と命名された。



※『ホー吸入』を解説した動画・パンフレットを日本喘息学会ホームページで閲覧可

4 デバイスごとの吸入ポイント

※ 国内で販売されている吸入薬について記載（令和4年2月現在）

① p-MDI

ポンペを1回押し込むことで、一定量の薬剤がエアロゾルとして噴霧される。吸入手技はどの薬剤も同様であるが、噴霧と吸気の同期が必要であり、吸入タイミングが重要となる。粒子径が小さいため、吸入後に息止めを行うことで肺内沈着率が増加する。

1. 種類

【ICS】オルベスコ、キュバル、フルタイドエアゾール



【ICS/LABA】アドエアエアゾール、フルティフォーム



【ICS/LAMA/LABA】 ビレーズトリ



【LAMA/LABA】 ビベスピ



【SABA】 サルタノール、ベロテック、メフチンエア・キッドエア



【SAMA】 アトロベント



2. 吸入方法

オープンマウス法：吸入口と口を離して吸入する方法

肺内沈着率が高く、特に口から 4cm 話した場合が良いとされている。

クローズドマウス法：吸入口をくわえて吸入する方法

オープンマウス法より手技が簡便であり、空気中への薬剤損失がない。

当院では特別な理由がない限り、クローズドマウス法を推奨している。

3. 準備時の注意点

- ✓ 補助具を使用する場合は、きちっとはまっていることを確認する。
- ✓ ボンベが上、吸入口が下になるように持つ。
- ✓ ボンベは最後まで一気に押し切る。

4. 保管時の注意点

- ✓ 直射日光や高温、湿度を避けて、1~30℃の室温で保管する（冷蔵庫での保管は結露の原因となるため不可）。
- ✓ 3 日以上開けて使用する場合は、開始時と同じ回数の空噴霧が必要。

アドエアエアゾール、フルティフォーム

ボンベは外さず、水で洗ったり、湿ったもので拭いたりしない。

噴霧口のつまりをさけるため、週に 1 回以上アダプターの吸入口の外側と内側を乾いたもので拭く。

オルベスコ

ボンベおよびアダプターに水を入れたり、水で洗うことは避ける。

乾いたもので拭く。

キュバル、フルタイドエアゾール、サルタノール

ボンベは外し、絶対に濡らさない。

アダプターは、少なくとも週に 1 回以上流水か温湯でよく洗い、十分に乾燥させる。

アトロベント

ボンベを外す。アダプターは時々流水が温湯で洗浄し、十分に乾燥させる。

ビバスピ、ビレーズトリ

ボンベを外し、週に 1 回流水で洗浄する。

メプチン

吸入器本体は絶対に水洗いしない。

吸入口を取り外して、時々水かぬるま湯で洗浄する。

5. 吸入補助具の使用

- 握力が弱く、ボンベが十分に押せない患者には補助具を使用してもらう。

フルティフォーム：フルプッシュ

メプチン：メップレップ

ビバスピ、ビレーズトリ：プッシュサポーター

アドエア、フルタイド(50 μ g)、サルタノール：ヘラーエイド

オルバスコ：専用噴霧補助具



フルプッシュ



メップレップ



プッシュサポーター



アドエア・フルタイド(50 μ g)用
ヘラーエイド



サルタノール用
ヘラーエイド



オルバスコ専用
噴霧補助具

- 吸入が上手くできない患者（吸気流速が弱い、噴霧と吸気の同期ができない）や、咽頭刺激感がある患者においては、スパーサーを使用して吸入を行うことを勧める。

【利点】噴霧と吸気の同期の必要性がない、噴霧時の刺激感が減る

【欠点】エアゾルが内壁に付着するため吸入効率が低下する

- ✓ スパーサーは、以前は製薬会社から無償で提供されていたものもあったが、現在無償提供品はなくなり、患者自身が自己負担で購入するものに限られる。
- ✓ 2020年度診療報酬改定で「吸入薬指導加算」が新たに認められた。その内容を以下に示す。

喘息治療管理料 2

別に厚生労働大臣が定める基準を満たす保険医療機関において、入院中の患者以外の喘息患者（6歳未満又は65歳以上のものに限る。）であって、吸入ステロイド薬を服用する際に吸入補助器具を必要とするものに対して、吸入補助器具を用いた服薬指導等を行った場合に、初回に限り算定する。

- 初回のみ 280点
- 6歳未満又は65歳以上の喘息患者（ICS使用）
- 吸入補助器具を患者に提供し、服薬指導を行う
- 吸入補助具の使用方法等について文書を用いた上で患者等に説明
- 指導内容の要点を診療録に記載
- 吸入補助器具に係る費用は所定点数に含まれる

代表的なスパーサー

- ✓ エアロチャンバープラス
- ✓ ボアテックス
- ✓ オプティチャンバーダイヤモンド

価格：約 2,000~5,000 円

※ 当院売店では「エアロチャンバープラス」の購入が可能である。



エアロチャンバープラス



ボアテックス



オプティチャンバーダイヤモンド

スパーサーを用いた吸入方法

① 薬の準備

- ✓ スパーサーに破損やゴミの付着がないか確認する。
- ✓ マスクを装着する場合、マウスピースの部分にしっかりと合はまるまで、軽い力でねじめるようにマスクを挿入する。
- ✓ 吸入器をよく振ってからキャップを外し、向きを合わせてセットする（吸入器をスパーサーにセットした後、スパーサーごと振ってもよい）
- ✓ 補助具はつけたまま使用可能。

② 姿勢を正す

③ 息吐き

- ✓ 姿勢を正し、息を吐き、マウスピースに隙間がないようにくわえる。
- ✓ マスクタイプは、隙間がないように口と鼻を覆い、軽く顔にあてる。
- ✓ 排気抵抗を減少させるための呼気弁や呼気バルブは、ふさがないように注意して持つ。

④ 吸入

- ✓ ボンベをスパーサー内にワンプッシュし、ゆっくり息を吸い込む（薬剤はスパーサー内に 30 秒程度滞留する）。
- ✓ 1 回で吸入できない場合は 2~3 回吸入する。
- ✓ マスクタイプはゆっくりした呼吸を 5 回程度、または 15 秒程度行う。
- ✓ 吸入流速を確認するホイッスルやアラートがついているスパーサーの場合、音が鳴らない速度で吸入を行う。

⑤ 息止め

- ✓ 吸入したら息止めをし、マウスピースから口を外して息を吐く。
- ✓ マスクタイプでも可能であれば息止めを行う。

※ 1 回に複数の吸入指示がある場合は、30 秒程度の時間をあけ、再度同様に吸入する（2 吸入指示の場合、一気にスパーサー内にボンベを 2 プッシュすることがないようにすること）。

※ ゆっくり息を吸うことが見込めない乳幼児（5 歳未満）や 65 歳以上の高齢者には、マスク付きのスパーサーを使用することを推奨する

スパーサー保管時の注意点

- ✓ 1週間に1回程度洗浄する。
- ✓ スパーサーごとの指示に従って分解する。無理に力をくわえて外さない。
- ✓ 中性洗剤を加えたぬるま湯に15分程度浸す（浸す前に1~2分程度、振り洗いをしてもよい）。ブラシで擦る等の洗浄は、破損の原因になるため行わない。
- ✓ 清潔な流水ですすぎ、余分な水分を振り払う。
- ✓ すべての部品を十分に自然乾燥させ、組み立てる。
- ✓ 食器洗い機での洗浄や乾燥、滅菌や熱湯消毒は行わない（エアロチャンバーの静電気防止付きタイプのみ、食器洗い機での洗浄可能、乾燥不可）。
- ✓ 使用期間は1年間。1年間使用した後は新しいものに交換する。

エアロチャンバープラス

製造元：Trudell Medical International、製造販売元：株式会社アムコ



オブティーチャンバー ダイヤモンド

製造販売業者：フィリップス・レスピロニクス合同会社



オプション：ライトタッチフェイスマスク

(S: 0~18か月、M: 1~5歳、L: 5歳以上)

② DPI

粉末状に製した薬剤を、患者の吸気でエアゾル化して吸入する。吸入のタイミングの問題はないが患者自身の一定量の吸気流速が必要となるため、幼児・重度の COPD・吸入部をくわえることができない・吸気流速がない等の患者には使用することができない。

1. 種類

【ICS】アズマネックス、アニュイティ、
パルミコート、フルタイムディスカス



【ICS/LABA】 アテキュラ、アドエアディスカス、
シムビコート（ブデホル）、レルベア



【ICS/LAMA/LABA】 テリルジー、エナジア



【LABA】 オーキシス、オンブレス、セレベントディスクス



【LAMA】 エクリラ、エンクラッセ、シーブリ、
スピリーバハンディーヘラー



【LAMA/LABA】 アノーロ、ウルティプロ	【SABA】 メプチンスイングヘラー
 	

2. 吸入方法

デバイスが多く、使用薬剤により多様化している。デバイスの操作が複雑な場合もあるため、手技の確認をしておく必要がある。吸入後の息止めは必要ではないものも多いが、吸入の一連の動作として推奨する。

ディスクス

アドエア、セレベント、フルタイド

エリプタ

アノーロ、アニューイティ、エンクラッセ、レルベア、テリルジー

タービュヘイラー

オーキシス、シムビコート、パルミコート

ツイストヘラー

アズマネックス

ハンディーヘラー

スピリーバ

ブリーズヘラー

ウルティプロ、オンプレス、シーブリ

スイングヘラー

メプチン

ジェヌエア

エクリラ

3. 準備時の注意点

ディスクス

残数を確認する。カバーをあけ、水平にしてレバーを押す。カバーもレバーも「カチッ」という音が鳴るまで最後までしっかり押し切る。

エリフタ

カバーは「カチッ」というまでしっかり開け、カウンターが減ったことを確認する。

タービュハイラー

残数を確認する。垂直にして回転グリップを回す。右に止まるまで回し、左に戻した時の「カチッ」という音を聞き逃さない。

ツイストヘラー

キャップがしっかりとしまっていることを確認し、垂直にしてキャップを回す。キャップを外すと同時に「カチッ」と音がして薬剤が充填され、カウンターが減る。

ハンディーヘラー

マウスピースを閉める時の「カチッ」、緑色のボタンを押してカプセルに穴が開く時の「バリッ」という音を聞き逃さない。

ブリーズヘラー

マウスピースを閉める時の「カチッ」、両側のボタンを押してカプセルに穴が開く時の「バリッ」という音を聞き逃さない。

スイングヘラー

残数を確認する。カウンター面を上に向けて、水平な状態でボタンを「カチッ」というまで押し込み、ボタンを離す。

ジェヌエア

水平に保ち、ボタンを「カチッ」と押し、信号（小窓）の色の緑色を確認する。

4. 保管時の注意点

- ✓ 直射日光や高温、湿度を避けて、1~30℃の室温で保管する（冷蔵庫での保管は結露の原因となるため不可）。
- ✓ スピリーバカプセルのみ 1~25℃で保管。25℃を超える場合は冷蔵庫での保管可。

ディスクス

水に濡らさない。室温保存で開封後 24 か月安定（フルタイムは 12 か月）。

エリブタ

水に濡らさない。室温保存で開封後 6 週間安定（吸湿性問題なし）。

タービュハイラー

水に濡らさない。室温保存で開封後 3 か月安定。

ツイストヘラー

開封後、25℃の環境下で 4 か月安定。

ハンディーヘラー

月に 1 回程度洗浄、約 1 年を目安に交換。カプセルの保管温度に注意（25℃以下、凍結は避ける）。

ブリーズヘラー

水洗いせず乾いた布で週 1 回掃除、30 日を目安に交換。アルミシートから出したら速やかに使用。

スイングヘラー

水に濡らさない。（毎日使用、防湿キャップを閉めて保管の場合）開封後 50 日安定。（1 か月に 1 回使用、防湿キャップを閉めて保管の場合）6 か月安定。

ジェヌエア

開封後 90 日安定。キャップを閉める。

5. 吸入補助具の使用

- 吸気流速が十分か確認するために、インチェック（経口吸気流速測定用）、デバイスごとのトレーナー・テスター（笛）を用いて確認する。

笛は一定以上の吸気流速があれば音になる。

ディスクス：ディスクストレーナー（30L/min）

エリプタ：エリプタトレーナー（30L/min）

ツイストハラー：アズマネックス吸入操作練習用具（30L/min）

タービュハイラー：タービュテスター（35L/min）

スイングハラー：練習用ホイッスル（20L/min）



インチェック



ディスクストレーナー



エリプタトレーナー



アズマネックス
吸入操作練習用具



タービュテスター



練習用ホイッスル

- ▶ ボタンを押しにくい患者には、補助具を使用してもらう。
スイングハラー：スイングハラー専用補助具



専用補助具

- ▶ 回転させる操作が必要であるため、回転方法が分かりにくい、回しにくい患者には補助具を使用してもらう。
タービュハイラー：グリップサポーター



グリップサポーター

③ SMI

スプリングの機械的な力を利用し、噴出孔を通じて一定量の薬剤をミスト状に噴出する。

1. 種類

【LAMA】スピリーバ	【LAMA/LABA】スピオルト
 A clear plastic inhaler with a light blue cap and a small white cartridge with a blue label. The label on the inhaler says 'スピリーバ 2.5g' and 'レスピマ 60吸入'.	 A clear plastic inhaler with a light green cap and a small white cartridge with a green label. The label on the inhaler says 'スピオルト 28吸入' and '72.5g'.

2. 吸入方法

デバイスの透明ケースを回転させることによってスプリングを圧縮させ、噴霧ボタンを押すことにより、細かい粒子からなるミストがゆっくり長時間生成される。

COPD に対して、p-MDI と比較して肺内沈着率が高い。初回にカートリッジを装着させるだけで使用可能であり、常温で保存可能である。

3. 準備時の注意点

- ✓ カートリッジがまっすぐに奥まで装着されていることを確認する。
- ✓ 回転時は誤噴霧を防ぐため、キャップは閉じる。

4. 保管時の注意点

- ✓ 直射日光や高温、湿度を避けて、1~30℃の室温で保管する（冷蔵庫での保管は結露の原因となるため不可）。
- ✓ カートリッジは外さない。水洗いはせず、乾いたもので拭く。
- ✓ カートリッジが刺さった状態のままであれば、3か月で破棄する。
- ✓ 7日以上使用しなかった場合は、1回空噴霧が必要（21日以上であればミストが見えるまで+3回）。

5. 補助具の使用

- 吸気流速が十分か確認するために、インチェック（経口吸気流速測定用）、チェックキット（笛）を用いて確認する。笛は一定以上の吸気流速があれば音になる。

レスピマット：吸入速度チェックキット（笛）



吸入速度チェックキット

- 回転させる操作が必要であるため、回転方法が分かりにくい、回しにくい患者には補助具を使用してもらう。

レスピマット：回転くん



回転くん

5 デバイス選択

患者に適切な吸入を行ってもらうために、患者ひとりひとりに適した吸入デバイスを選択することが必須である。

デバイス選択の際には、以下のような事項に注意し、選択する必要がある。

- 患者の吸気流速は十分あるか
 - インチェック（経口吸気流速測定用）、デバイスごとのトレーナー・テスター（笛）を用いて確認する
 - DPI 使用時に吸気流速が不十分
 - デバイスの変更を検討する（吸気流速は以下の表を参照）
 - p-MDI や SMI の使用を検討する
 - p-MDI+スパーサーを使用する

吸気流速(L/mL)		ICS	LABA	LAMA	ICS/LABA	LAMA/LABA	ICA/LAMA/LABA	SABA
ブリーズハラー	50		オンプレス	シープリ		ウルティプロ		
ジェヌエア	45			エクリラ				
ディスクス	30	フルタイド	セレバント		アドエア			
エリプタ	30~36	アニュイティ		エンクラッセ	レルバア	アノーロ	テリルジー	
タービュハイラー	30~35	パルミコート	オーキシス		シムビコート			
ツイストハラー	20	アズマネックス						
ハンディハラー	20			スピリーバ				
レスピマット	15			スピリーバ		スピオルト		
スイングハラー	20							メブチン

- 生活スタイルに合っているか（アドヒアランスを維持できるか）
 - ✓ 内服薬が1日1回
 - 吸入薬も1日1回のものにする
 - ✓ うがいができない
 - ICS 使用時は、吸入回数の少ないものにする

- **認知機能は良好であるか**
 - ✓ 用法・用量を理解できていない
 - 患者が理解しやすい吸入器への変更を検討する（例：1日1回吸入のもの）
 - ✓ 手技が理解できていない
 - 操作方法が分かりやすいデバイスへの変更を検討する（例：エリプタ）

- **身体的機能は問題ないか**
 - ✓ 握力低下、しびれ、手指障害がある（リウマチ患者等）
 - 補助具を使用する（例：p-MDI+スパーサー）
 - 簡単な操作でよいデバイスに変更する（例：エリプタ、ディスクス）
 - ✓ DPI 使用時にムセがある
 - 比較的ムセにくい p-MDI、SMI を検討する
 - ✓ P-MDI 使用時に噴霧と吸入の同期が難しい
 - スパーサーを使用する
 - DPI の使用を検討する
 - ネブライザーを使用する
 - ✓ 視力の低下がある
 - 「カチッ」など音による操作確認が可能な吸入器を検討する
（例：エリプタ、ディスクス、タービュヘイラー）
 - ロックアウト機能のある吸入器を検討する
（例：ジェヌエア、ツイストヘラー、スイングヘラー、レスピマット）

※ロックアウト機能：残量ゼロになると操作ができなくなる機能
 - ✓ 聴力の低下がある
 - 音による吸入操作の確認の記載がないものにする
（例：ディスクヘラー、p-MDI）

- 介助者の手助けはあるか
 - ✓ 介助がある場合
 - ネブライザーを使用する
 - 吸入の確認がしやすい p-MDI にする
 - ✓ 介助がない場合
 - 手技が簡便なデバイスを選択する（例：エリプタ、p-MDI）
 - 補助具を使用する

- 小児の年齢にあったデバイスか
 - ✓ 吸入器と吸入補助具（スパーサー、マスク）の組み合わせを検討する
 - ネブライザー or スパーサー付き p-MDI
 - 乳児は、マスクを顔に密着させて平気であれば、マスク付きスパーサーを用いて p-MDI が使用可能
 - マスク or マウスピース
 - 幼児は、口呼吸ができれば、マウスピースタイプが使用可能
 - DPI
 - 一般に 5 歳以上か吸気流速が十分であれば吸入可能

年齢層	薬剤	吸入器具・補助具
乳児（2歳以下）	p-MDI	マスク付きスパーサー
	吸入液	マスクタイプネブライザー
幼児（3～5歳）	p-MDI	マスク付きスパーサー
		マウスピース付きスパーサー
	吸入液	マスクタイプネブライザー
		マウスピースタイプネブライザー
学童（6～15歳）	p-MDI	マウスピース付きスパーサー
		直接吸入
	DPI	直接吸入
	吸入液	マウスピースタイプネブライザー

6 吸入薬一覧

※ 国内で販売されている吸入薬について記載（令和 4 年 2 月現在）

ICS

製品名	アズマネックス	アニュイティ	オルバスコ	キュバール
タイプス	ツイストハラー	エリプタ	インハラー	エアゾール
適応	BA	BA	BA	BA
有効成分	モメタゾン	フルチカゾン	シクレソニド	ベクロメタゾン
(1吸入・1Cap中)	100 μ g  200 μ g 	100 μ g  200 μ g 	50 μ g  100 μ g  200 μ g  56回 	50 μ g  100 μ g 
1容器の吸入回数	60回	30回	112回	100回
残量計	○	○	×	×
空打ち	-	-	3回	2回
アルコール含有	-	-	○	○
1回量	100 μ g	100 μ g (症状に応じて200 μ g)	100~400 μ g	100 μ g
回数/日	2回	1回	1回	2回
	適宜増減 MAX 800 μ g/day		適宜増減 MAX 800 μ g/day	適宜増減 MAX 800 μ g/day
1回量			100~200 μ g	50 μ g
回数/日			1回	2回
			適宜増減 min 50 μ g/day	適宜増減 MAX 200 μ g/day

成人

小児

ICS

製品名	パルミコート	フルタイド			
デバイス	タービュハイラー	ディスクス		エアゾール	
適応	BA	BA			
有効成分	ブデゾニド	フルチカゾン			
(1吸入・1Cap中)	100 μ g	50 μ g	100 μ g	200 μ g	50 μ g
					
	200 μ g				
1容器の吸入回数	112回	56回	112回	60回	120回
残量計	○ (印のみ)			○	×
空打ち	2回			-	不要
アルコール含有	-			-	×
1回量	100-400 μ g	100 μ g			
回数/日	2回	2回			
	適宜増減 MAX 1600 μ g/day	適宜増減 MAX 800 μ g/day			
1回量	100~200 μ g	50 μ g			50 μ g
回数/日	2回	2回			2回
	適宜増減 MAX 800 μ g/day min 100 μ g1日1回	適宜増減 MAX 200 μ g/day			適宜増減 MAX 200 μ g/day

成人

小児

LAMA

製品名	イクリラ		エンクラッセ		スピリーバ			シーブリ	
	デバイス	ジェスエア	エリプタ	エリプタ	レスピマット	ハンディーヘラー	ハンディーヘラー	シリーズヘラー	
適応	COPD		COPD		BA	BA・COPD	COPD		
有効成分	アクリジニウム		ウメクリジニウム		チオトロピウム			グリコピロニウム	
(1吸入・1Cap中)	400 μ		62.5 μ g		1.25 μ g	2.5 μ g	18 μ g	50 μ g	
									
1 容器の吸入回数	30回	60回	7回	30回	60回	60回	-	-	
残量計	○ (10回刻み)		○		○ (目盛り)			-	
空打ち	-		-		4回			-	
アルコール含有	-		-		×			-	
1 回量	400 μ g		62.5 μ g		2.5 μ g (2吸入)	5 μ g (2吸入)	18 μ g (1cap)	50 μ g (1cap)	
回数/日	2回		1回		1回	1回	1回	1回	
					※重症度の高い喘息患者				
1 回量									
回数/日									

成人

小児

LABA				
製品名	オーキシス	オンブレス	セレベント	
デバイス	タービュハイラー	ブリーズヘラー	ディスクス	
適応	COPD	COPD	BA・COPD	
有効成分	ホルモテロール	インダカテロール	サルメテロール	
(1吸入・1Cap中)	9μg	150μg	50μg	
	 28回	 -	 60回	
1容器の吸入回数	60回	-	60回	
残量計	○ (60/20/0)	-	○	
空打ち	3回	-	-	
アルコール含有	-	-	-	
1回量	9μg (1吸入)	150μg (1cap)	50μg (1吸入)	
回数/日	2回	1回	2回 朝・就寝前	
1回量				
回数/日				
				MAX 50μg/回 1日2回

成人

小児


ICS/LABA

製品名		アドエア									
デバイス	エアゾール										
適応	BA / COPD										
有効成分	フルチカゾン / サルメテロール										
(1吸入・1Cap中)	100µg/50µg	250µg/50µg	500µg/50µg	50µg/25µg	125µg/25µg	250µg/25µg					
	100 	250 	500 	50 	125 	250 					
1容器の吸入回数	28回	60回	28回	60回	28回	60回	28回	60回	120回		
残量計	○										
空打ち	-										
アルコール含有	-										
1回量	BA : 1吸入			BA : 2吸入							
回数/日	COPD : 1吸入			COPD : 2吸入			2回				
1回量	BA : 250、500は症状に応じて			BA : 125、250は症状に応じて							
回数/日	1吸入			1~2吸入							
回数/日	2回			2回							
				2吸入は症状に応じて							

成人

小児

ICS/LABA

製品名		シムピコート		ブテホル	
デバイス	タービュハイラー				
適応	COPD				
有効成分	ブテソニド / ホルモテロール				
(1吸入・1Cap中)	160 μ g / 4.5 μ g				
					
1容器の吸入回数	30回	60回	30回	60回	60回
残量計	○ (60/20/0)				
空打ち	3回				
アルコール含有	-				
1回量	1吸入		2吸入		
回数/日	2回		2回		
成人	<p>MAX : 1回4吸入 1日2回 (計8吸入) 維持療法として1回1or2吸入 1日2回投与時、発作出現時1吸入可。 (1回の発作につき、最大6吸入まで) 一時的に12吸入/dayまで可</p>				
1回量					
回数/日					
小児					

ICS/LABA

製品名		アテキユラ		フルティフォーム		レルベア	
デバイス	プリーズヘラー	エアソール		エアソール		エリプタ	
適応	BA	BA		BA		BA COPD BA	
有効成分	モメタゾン / インダカテロール	フルチカゾン / ホルモテロール		フルチカゾン / ピランテロール			
(1吸入・1Cap中)	80 μ g/150 μ g	160 μ g/150 μ g	320 μ g/150 μ g	50 μ g / 5 μ g	125 μ g / 5 μ g	100 μ g/25 μ g	200 μ g/25 μ g
	低用量 	中用量 	高用量 				
1容器の吸入回数	-	-	-	56回	120回	14回	30回
残量計	-	-	-	O (色分け、残20のみ数字あり)			O
空打ち	-	-	-	4回			
アルコール含有	-	-	-	O			
1回量	1 cap			2吸入	2~4吸入	1吸入	1吸入
回数/日	1回			2回		1回	1回
	中用量、高用量は 症状に応じて					症状に応じて	
1回量				2吸入			
回数/日				2回			

成人

小児

LAMA/LABA




製品名	アローノ	スピオルト	ウルティプロ	ヒバスビ
デバイス	エリフタ	レスピマット	ブリーズハラー	エアロスファイア
適応	COPD	COPD	COPD	COPD
有効成分	ウメクリジニウム/ピランテロール	チオトロピウム/オロダテロール	グリコピロニウム/インデカテロール	グリコピロニウム/ホルモテロール
(1吸入・1Cap中)	62.5 μ g / 25 μ g 	3.124 μ g / 2.736 μ g 	50 μ g / 110 μ g 	7.2 μ g / 4.8 μ g 
1容器の吸入回数	7回	28回	-	28回
残量計	○	○ (目盛り)	-	15きざみ (10噴霧毎に進む)
空打ち	-	4回	-	4回
アルコール含有	-	×	-	×
1回量	1吸入	2吸入	1カプセル	2吸入
回数/日	1回	1回	1回	2回
1回量				
回数/日				
小児				

ICS / LAMA / LABA

製品名	テリルジー		ビレストリ	エナジア
タイプ	エリプタ		エアロファイア	ブリースハラー
通称	BA / COPD	BA	COPD	BA
有効成分	フルチカソン/ ワメクリジニウム/ ビランテロール		ブテソニド / グリコピロニウム / ホルモテロール	モメタゾン/ グリコピロニウム/ インダカテロール
(1吸入・1Cap中)	100 μ g / 62.5 μ g / 25 μ g	200 μ g / 62.5 μ g / 25 μ g	160 μ g / 7.2 μ g / 4.8 μ g	80 μ g / 50 μ g / 150 μ g 160 μ g / 50 μ g / 150 μ g
				
1 容器の吸入回数	14回	30回	56回	-
残量計	○	○	○ (20錠目盛り、10ごとに進む)	-
空打ち	-	-	4回 (1週間以上使用していない場合は2回)	-
アルコール含有	-	-	×	-
1回量	1吸入	1吸入	2吸入	1カプセル
回数/日	1回	1回	2回	1回
1回量				症状に応じて
回数/日				

成人

小児

SABA				SAMA	
製品名	サルタノール	メブチン		ベロテック	
デバイス	インハラール	エアール	スイングハラー	エアール	エアール
適応	BA・肺炎腫・気管支炎・肺結核	BA・慢性気管支炎・肺炎腫		BA・慢性気管支炎・肺炎腫	
有効成分 (1吸入・1Cap中)	サルブタモール 100μg 	プロカテロール 5μg 		フェニテロール 0.1mg 	
1容器の吸入回数	約200回	100回	100回	200回	200回
残量計	×	○	○	×	×
空打ち	×	2回	×	2回	2回 (3日以上使用しなかった場合1回)
アルコール含有	×	○	×	○	○
1回量	2吸入	2吸入		2吸入	1~2噴射
回数/日					3~4回
	MAX: 1日4回 (8吸入) 通常3時間以上効果持続	MAX: 1日4回 (8吸入)	MAX: 1日4回 (16吸入)	MAX: 1日4回 (8吸入)	適宜増減
		効果不十分時 →初めの1時間まで20分おき →以後1時間おき		吸入後2~5分後効果不十分 →2吸入まで追加 →6時間あけて	
1回量	1吸入	1吸入		2吸入	
回数/日					
	MAX: 1日4回 (4吸入) 通常3時間以上効果持続	MAX: 1日4回 (4吸入)	MAX: 1日4回 (8吸入)	MAX: 1日4回 (8吸入)	入院中など、 医師の厳重な管理・ 監督下でのみ投与
		15分後に効果不十分 →1~2時間後に追加吸入 →症状改善ない場合は受診 受診に時間を要する場合は20分~1時間後に再度吸入可			

7 吸入チェックリスト

2020 年度診療報酬改定において「吸入薬指導加算」が新設された。その内容を以下に示す。

吸入薬指導加算

- (1) 喘息又は慢性閉塞性肺疾患の患者が吸入薬を適切に使用し、治療効果の向上や副作用の回避に繋がるよう、以下のア及びイを行った場合に3月に1回に限り算定する。ただし、当該患者に対し他の吸入薬が処方された場合であって、必要な吸入指導等を別に行ったときには、前回の吸入薬指導加算の算定から3月以内であっても算定できる。
 - ア 文書及び練習用吸入器等を用いて、吸入手技の指導を行い、患者が正しい手順で吸入薬が使用されているか否かなどの確認等を行うこと。
 - イ 保険医療機関に対し、文書による吸入指導の結果等に関する情報提供を行うこと。
- (2) 当該加算に係る指導は以下のア又はイの場合に、患者の同意を得て行うものであること。
 - ア 保険医療機関からの求めがあった場合
 - イ 患者若しくはその家族等の求めがあった場合等、吸入指導の必要性が認められる場合であって、医師の了解を得たとき
- (3) 当該加算に係る吸入指導を行うにあたっては、日本アレルギー学会が作成する「アレルギー総合ガイドライン 2019」等を参照して行うこと。
- (4) (1) の「文書による吸入指導の結果等に関する情報提供」とは、吸入指導の内容や患者の吸入手技の理解度等について、保険医療機関に情報提供することであり、文書その他、手帳により情報提供することでも差し支えない。ただし、患者への吸入指導を行った結果、患者の該当吸入薬の使用について疑義等がある場合には、処方医に対して必要な照会を行うこと。なお、保険医療機関に情報提供した文書等の写し又はその要点等を薬剤服用歴の記録に添付又は記載すること。
- (5) 当該加算は、かかりつけ薬剤師指導料又はかかりつけ薬剤師包括管理料を算定している患者については算定できない。また、当該加算の算定に関する保険医療機関への情報提供については、服薬情報等提供料は算定できない。

※当院では、(4) の情報提供について福岡市薬剤師会へ以下の点を依頼し運用している。

- ・文書による吸入指導の結果等に関する情報提供は、貴会作成の「吸入薬指導用提供文書」にて情報提供

・「吸入薬指導用提供文書」は保険薬局ごとに一か月分をまとめて、翌月上旬に当院薬剤部宛に郵送

なお、福岡市以外の保険薬局においては、当該地域で使用している様式等で情報提供をお願いいたします。

郵送いただいた「吸入薬指導用提供文書」は、薬剤部から主治医へ報告し、その後電子カルテへの取り込みを行い、共有しております。

吸入薬による治療効果は、内服薬と比較して患者自身の手技や使用状況に大きく依存する。吸入指導時に以下のようなチェックシートを用いることで、指導のばらつきを改善し、重要なポイントを漏らすことなく指導を行うことが可能と思われる。

次ページにチェックリストを添付しているので、吸入指導の補助として活用していただければ幸いである。

吸入チェックリスト

患者名：

指導日：

指導者：

【指導回数】

<input type="checkbox"/> 初回	<input type="checkbox"/> 継続 (回目)
-----------------------------	-----------------------------------

【説明の内容】

<input type="checkbox"/> 吸入説明書にて説明	<input type="checkbox"/> 口頭にて説明	<input type="checkbox"/> 動画にて説明
<input type="checkbox"/> 練習器による指導 (薬剤師)	<input type="checkbox"/> 練習器による指導 (患者)	<input type="checkbox"/> 実薬の吸入実施 (患者)

【疾患・薬剤に対する理解度】

内容	薬剤名① ()	薬剤名② ()
疾患 (病態) について理解している	○ △ ×	○ △ ×
薬剤名が言える	○ △ ×	○ △ ×
薬効 (薬の役割) を理解している	○ △ ×	○ △ ×
用法・用量を理解している (定期・屯用)	○ △ ×	○ △ ×
保管・手入れの方法を理解している	○ △ ×	○ △ ×
副作用を理解している	○ △ ×	○ △ ×
薬剤の重要性を理解している	○ △ ×	○ △ ×

【手技に対する理解度】

内容	薬剤名① ()	薬剤名② ()
①準備 (初回は空打ち、薬のセットができています)	○ △ ×	○ △ ×
②姿勢を正す	○ △ ×	○ △ ×
③息吐き	○ △ ×	○ △ ×
④吸入 (正しく吸入ができています)	○ △ ×	○ △ ×
⑤息止め (5秒)	○ △ ×	○ △ ×
⑥後片づけ	○ △ ×	○ △ ×
⑦うがい (ぶくぶく、ガラガラを数回)	○ △ ×	○ △ ×
継続指導の必要性	○ △ ×	○ △ ×

【スプレーを使用する場合】

《全体》	薬剤名① ()	薬剤名② ()
噴霧後速やかに吸入ができています	○ △ ×	○ △ ×
1プッシュごとに吸入している (1吸入時にまとめて複数プッシュしていない)	○ △ ×	○ △ ×
静電気を乗じないように取り扱っている (スプレーをこすらない等)	○ △ ×	○ △ ×
適切な保管ができています (洗浄時に自然乾燥させている等)	○ △ ×	○ △ ×
《マスクを使用する場合》		
吸入の間ずっとマスクが顔に密着している	○ △ ×	○ △ ×
安静呼吸を数回行えている (エアロチャンバーではフローインジケーターで呼吸を確認)	○ △ ×	○ △ ×
吸入後に口のまわりを拭いている	○ △ ×	○ △ ×
《マウスピースを使用する場合》		
息を吐いた状態でマウスピースをしっかりと口にくわえている	○ △ ×	○ △ ×
マウスピースをくわえた時に隙間ができていない	○ △ ×	○ △ ×
マウスピースから唾液がネブライザー内に逆流していない	○ △ ×	○ △ ×
一回で吸入しきれない場合は再度吸入ができています	○ △ ×	○ △ ×

【アドヒアランスの確認】

内容	薬剤名① ()	薬剤名② ()
積極的に責任をもって行っている	○ ×	○ ×
吸入残数がある	○ ×	○ ×

【医師への連絡事項】

<input type="checkbox"/> 吸入方法、手技に問題あり	<input type="checkbox"/> 副作用発現あり
→ デバイスの変更 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 必要 ()	→ ()
→ 補助具の使用 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 必要	<input type="checkbox"/> 残薬あり
→ スプレーの使用 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 必要	

【その他 特記事項】

--

吸入チェックリスト（小児の注意点）

患者名：

指導日：

指導者：

【指導回数】

<input type="checkbox"/> 初回	<input type="checkbox"/> 継続（	回目）
-----------------------------	------------------------------	-----

【全体の注意点】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
鼻呼吸をせずに口呼吸をしている	○	△	×	○	△	×
泣かずに（嫌がらずに）吸入できる	○	△	×	○	△	×
吸入後にうがい・飲水をしている	○	△	×	○	△	×

【マスクを使用する場合】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
吸入の間ずっとマスクが顔に密着している	○	△	×	○	△	×
安静呼吸を数回行えている （エアロチャンバーではフローインジケーターで呼吸を確認）	○	△	×	○	△	×
吸入後に口のまわりを拭いている	○	△	×	○	△	×

【マウスピースを使用する場合】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
息を吐いた状態でマウスピースをくわえている	○	△	×	○	△	×
マウスピースをくわえた時に隙間ができていない	○	△	×	○	△	×
マウスピースから唾液がネブライザー内に逆流していない	○	△	×	○	△	×
一回で吸入しきれない場合は再度吸入ができていない	○	△	×	○	△	×

【スパーサーを使用する場合】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
噴霧後速やかに吸入ができていない	○	△	×	○	△	×
1プッシュするごとに吸入している （1吸入時にまとめて複数プッシュしていない）	○	△	×	○	△	×
静電気を乗じないように取り扱っていない （スパーサーをこすらない等）	○	△	×	○	△	×
適切な保管ができていない （洗浄時に自然乾燥させている等）	○	△	×	○	△	×

【p-MDIを使用する場合】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
押すタイミングと吸気のタイミングが一致していない	○	△	×	○	△	×
ゆっくり深く吸える（約3秒）	○	△	×	○	△	×
息止めができる（3秒以上）	○	△	×	○	△	×

【DPIを使用する場合】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）		
薬剤がこぼれないように容器を正しく持つことができる	○	△	×	○	△	×
吸入前に息を吹きかけて薬剤を吹き飛ばしていない	○	△	×	○	△	×
力強く深く吸える	○	△	×	○	△	×
息止めができる	○	△	×	○	△	×

【アドヒアランスの確認】

内容	薬剤名①（	）	薬剤名②（	）
積極的に責任をもって行っている	○	×	○	×
吸入残数がある	○	×	○	×

【その他 特記事項】

--

《参考文献》

喘息予防・管理ガイドライン 2021

喘息診療実践ガイドライン 2021

COPD 診断と治療のためのガイドライン第 4 版

「吸入療法の ABC」日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 2015 玉尾淳

「薬剤師だからできる！しっかり吸入指導」福田早紀子

「吸入療法マニュアル -成人-」八千代吸入療法研究会

「吸入指導マニュアル -いつでも・どこでも・誰でも-」佐野病薬連携の会

「吸入指導マニュアル JA 愛知厚生連 海南病院」海南吸入指導スキルアップ研究会
レシピプラス vol.17 NO.1 冬 2017「気管支喘息・COPD の吸入剤」

日本呼吸器学会誌

日本喘息学会ホームページ

各製薬会社の吸入パンフレット

作成 福岡病院薬剤部